

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03523

研究課題名（和文）政治における女性の過少代表に関する研究

研究課題名（英文）Research on underrepresentation of women in politics

研究代表者

尾野 嘉邦（Ono, Yoshikuni）

東北大学・法学研究科・教授

研究者番号：70598664

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：政治における女性の過少代表の問題について理解するために、本研究では、女性議員全般に対して有権者が抱く印象や偏見を明らかにするとともに、候補者に対するサーベイの回答や、選挙公報などの内容を分析し、政治家や候補者の言動に見られる男女差を検証した。その上で、実験的手法を用いたサーベイを実施し、候補者の性別が有権者の評価や判断にどの程度の影響を与えているのか、さらにどのような条件のもとで女性候補者に対する評価が変化するかを探った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

データの分析結果からは、候補者の間で重視する政策争点や争点態度に大きな男女差が存在していることや、候補者の性別によって有権者が抱く印象や評価について大きな違いがあり、それが投票行動をも左右していることが明らかになった。それらの研究成果は、ワシントン・ポスト紙で取り上げられたほか、Journal of Politics やPolitical Behavior, Political Science Research and Methodsなどの有力な学術雑誌に掲載されるなど、社会的にも学術的にも非常に高い注目を浴びている。

研究成果の概要（英文）：In order to understand the issue of significant underrepresentation of women in politics, this study examined gender differences in the behavior of politicians and candidates by analyzing candidates' survey responses and election manifestos. In this research, I also conducted multiple survey experiments to find out how candidate gender influences voters' evaluation and judgment, and under what conditions the evaluation of female candidates changes.

研究分野：政治学

キーワード：ジェンダー 投票行動 選挙

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国会における女性議員の数は依然として少なく、その比率は世界 191 カ国の平均値を大きく下回っている。有権者の過半数が女性であるにも関わらず、なぜ女性議員の数が少ないのだろうか？一つの有力な仮説として、有権者が女性候補者に対して偏見を持っているという点が挙げられる。実際に世界価値観調査の結果によると、日本においては、「男性のほうが女性よりも政治的指導者として適している」という意見に賛成する人が 3 割にも上る。有権者は選挙に際して様々な情報に接するが、大量の情報を収集し分析することが難しいことから、多くは直感や断片的情報などに基づいて手早く判断を行うとされる。そのため、こうした女性議員や候補者への偏見が、有権者の投票を妨げているのかもしれない。

しかしながら、候補者の性別は、有権者が選挙に際して接する情報の一つに過ぎない。有権者には、候補者の性別以外に、所属政党や公約、世論の動向といった様々な情報が提示されており、そうした他の情報が性別の影響を打ち消してしまう可能性も存在している。したがって、候補者の性別が有権者の投票行動に与える影響を評価するには、こうした他の情報の影響を切り離す必要がある。ただ、候補者や政党は有権者の反応を事前に予測して戦略的に行動していることから、現実の選挙結果をもとに、それを検証することは非常に難しい。そのため、これまで米国のみならず日本においても、女性議員の研究は数多く存在しているが、そもそも投票に際して有権者が候補者の性別を考慮に入れているかどうかを厳密に分析した研究は存在していない。

2. 研究の目的

本研究では、有権者が候補者についてどのような情報をもとに投票の判断を下しているのか、そして有権者が判断する上で候補者の性別はどの程度重要であるのかを、コンジョイントなど実験的手法を取り入れたサーベイ調査を行って検証する。それにより、女性政治家がなぜ少ないのか、そしてどのような条件下で女性議員が増加しうるのであるのかといった点について探る。

3. 研究の方法

本研究では、以下の 3 つの項目に関して分析を行う。

(1) 有権者の女性議員や候補者に対するジェンダー・ステレオタイプ

米国においては、女性候補者は正直で思いやりがある一方で、有能さや強いリーダーシップの能力が欠けており、教育や医療といった政策課題を重視しているという印象が有権者の間で広がっているとされる。これらの研究を参考に、日本の有権者が女性議員や候補者に対して実際にどのような印象を抱いているのかについてサーベイ調査を行い、日米間の相違点を解明する。

(2) 男女の議員・候補者間に見られる政策や主張の差異

朝日・東大共同調査といった既存のサーベイ・データを分析するとともに、選挙公報などの候補者自身によって発せられる文書の内容を機械学習といった新しい手法を用いて解析する。それにより、女性候補者の政策や主張が男性と具体的にどのように異なっているのかという点について実証的に明らかにし、有権者が女性候補者に対して持つ印象との差異を検証する。

(3) 候補者の性別が有権者の判断に与える影響

有権者はサーベイに対して「社会的に望ましい」回答をする傾向があるため、女性候補者に偏見があるかどうかを直接質問したとしても、必ずしも本当の答えが得られるわけではない。そこで、リスト実験などの手法によって間接的に質問することで、潜在的にどのくらいの有権者が女性候補者に対して拒否感を抱いているのかを明らかにする。さらに、2 人の仮想的候補者について無作為に形成した略歴を提示し、被験者にいずれか一方を選択させることで、その略歴内の項目

が選別結果に与える影響力を推計しようとする、コンジョイント実験をオンライン上で行う。それにより、有権者の間で候補者に関する情報のうち、性別がどの程度重視され、候補者選別に影響を与えているのかを明らかにする。

4. 研究成果

(1) 有権者の女性議員や候補者に対するジェンダー・ステレオタイプ

有権者のジェンダー・ステレオタイプについては、2019年2月に全国の有権者3000人を対象とするオンライン調査を実施し、政策領域および性格面で男性政治家と女性政治家それぞれに対してどのような印象を抱いているのかを質問した。その結果、米国の場合と同様に、有権者の間で、安全保障や外交といった政策領域は男性政治家の方がより得意な分野で、教育や保育・児童福祉といった領域は女性政治家の方が得意分野だとするステレオタイプが共有されていることが明らかになった。こうしたジェンダー・ステレオタイプは、男女の有権者の間で同様に観察され、女性有権者の方がより強いステレオタイプを抱くものも見られた。この結果は、ジェンダー・ステレオタイプを扱う日本政治研究において、今後重要な指標となるものである。

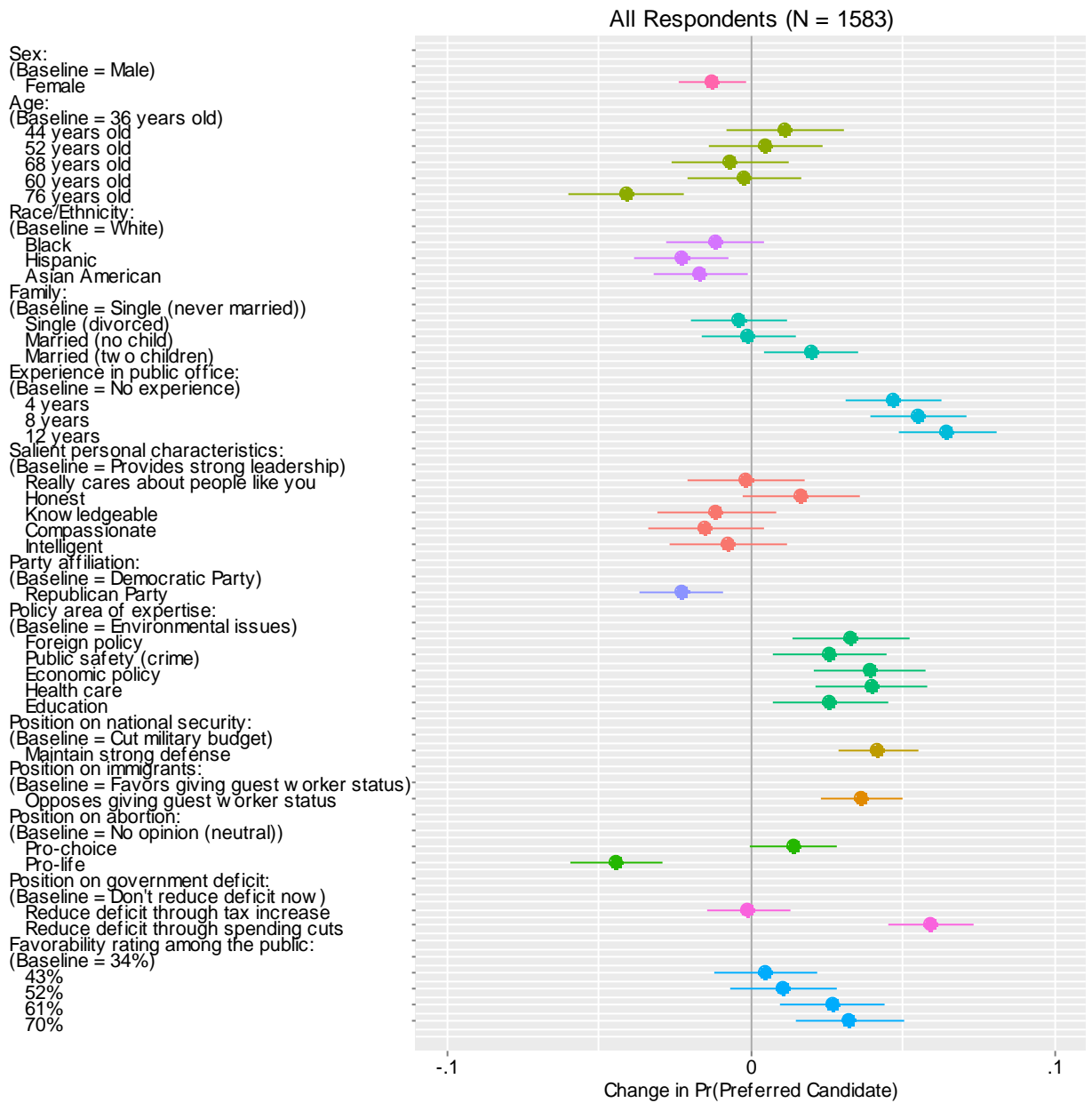
(2) 男女の議員・候補者間に見られる政策や主張の差異

1986年から2009年までの衆院選において使用された候補者個人の選挙公報のテキストデータをもとに、選挙キャンペーンにおいて強調される政策争点が、男女の候補者間で異なるかどうかについて分析を行った。確率的トピックモデルの一種である構造的トピックモデルをもとに分析した結果によると、家族支援・男女平等・子育て・平和主義といったトピックで男女差が見られ、既存研究において女性の方が高い関心を示す傾向にあるとされるこうしたトピックについては、女性候補者の方が男性候補者に比べてより多く言及しており、倍率で表すと2倍前後にも上ることが明らかになった。この違いは年金といった重要な争点に関する政党間の言及割合の差に匹敵するものである。今後さらに詳細な分析を進めるとともに、議事録などの他のテキストデータを使った分析を行い、選挙以外の文脈における男女差も検証する予定である。

(3) 候補者の性別が有権者の判断に与える影響

日米両国において、有権者を対象とするコンジョイント実験を行い、有権者のジェンダー・ステレオタイプが投票行動にどのような影響を与えているのかを分析した。この実験では、性別のほかに、人柄や学歴、政策ポジションなどについて記載した2人の(仮想的)候補者のプロフィールを無作為に作成した上で、それを被験者に提示し、どちらか支持するほうを選択させた。これにより、被験者がいずれか一方の候補者を選択する上で、候補者のプロフィールのうち、どの要素がどの程度大きな影響を与えているのかを推計することができる。実験結果によると、候補者の性別は有権者の判断に対して統計的に有意な影響を与えており、男性候補者に比べて女性候補者は選挙で不利になることが判明した(図1参照)。とりわけ男性有権者の方が女性候補者に対してより大きな負のバイアスを抱いており、女性有権者のほうも、必ずしも女性候補者を積極的に選んでいるわけではないことが明らかとなった。また、米国の実験結果からは、議会選挙に比べて大統領選挙において、候補者の性別が投票行動により大きな影響を与えていることが判明し、選挙で争われるポジションについても、ステレオタイプが働いていることが伺えた。これらの研究結果は、プロフィール以外の様々な実験刺激を用いた研究を進めるための基礎となることが予想される。

図1 候補者の特性が投票行動に与える影響



横軸上の点は、それぞれの特性（性別や年齢、人種など）を持つ候補者を有権者が選択する確率の推計値であり、直線は95%水準の範囲を示す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Ono Yoshikuni, Yamada Masahiro	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Do voters prefer gender stereotypic candidates? Evidence from a conjoint survey experiment in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Political Science Research and Methods	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/psrm.2018.41	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Ono Yoshikuni, Burden Barry C.	4. 巻 41
2. 論文標題 The Contingent Effects of Candidate Sex on Voter Choice	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Political Behavior	6. 最初と最後の頁 583-607
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11109-018-9464-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Ono Yoshikuni	4. 巻 8
2. 論文標題 The Perceptions of Local Political Actors After Natural Disasters: The Effect of Japan's 3/11 Disasters on Local Politics	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Risk, Hazards & Crisis in Public Policy	6. 最初と最後の頁 335 ~ 355
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/rhc3.12121	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Burden Barry C., Ono Yoshikuni, Yamada Masahiro	4. 巻 79
2. 論文標題 Reassessing Public Support for a Female President	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Politics	6. 最初と最後の頁 1073 ~ 1078
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1086/691799	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

[学会発表] 計17件(うち招待講演 3件/うち国際学会 13件)

1. 発表者名 Barry Burden & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Testing Alternative Explanations for Gender-Office Congruency
3. 学会等名 2018 American Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yusaku Horiuchi & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Opposition to Refugee Resettlement under Limited Contact with Foreigners
3. 学会等名 2018 American Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono & Justin Reeves
2. 発表標題 Gender Differences in Candidate Policy Priorities, Expertise, and Positions: Do Male and Female Office Seekers Represent Different Issues in Japan?
3. 学会等名 Harvard Symposium on Japanese Politics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾野嘉邦&堀内勇作
2. 発表標題 Voters' Attitudes toward Refugee Resettlement
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾野嘉邦 & 山田恭平
2. 発表標題 Size and Local Democracy: How Population Size Shapes the Behavior of Local Politicians in Japan
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Barry Burden & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Testing Alternative Explanations for Gender-Office Congruency
3. 学会等名 2018 Midwest Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono & Michael Zilis
2. 発表標題 Gender Stereotypes and Public Support for Court Decision
3. 学会等名 2018 Midwest Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono & Kyohei Yamada
2. 発表標題 Size and Local Democracy: How Population Size Shapes Campaign Strategies of Local Politicians in Japan
3. 学会等名 2018 Midwest Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yusaku Horiuchi & Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Understanding Japanese Voters' Attitudes towards Global Refugee Crisis
3. 学会等名 2018 Midwest Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono & Barry Burden
2. 発表標題 The Contingent Effects of Candidate Sex on Voter Choice
3. 学会等名 American Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Gender and Leadership Styles in Politics: Evidence from Japan
3. 学会等名 Midwest Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 尾野嘉邦
2. 発表標題 ジェンダーステレオタイプと有権者の投票行動
3. 学会等名 東北法学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Gender Stereotypes and Candidate Evaluation
3. 学会等名 慶応大学比較政治セミナーシリーズ（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono & Yusaku Horiuchi
2. 発表標題 Understanding Japanese Voters' Attitudes on the Global Refugee Crisis
3. 学会等名 計量・数理政治学のフロンティア（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Do Voters Prefer Gender Stereotypic Candidates?
3. 学会等名 Yale Project on Japan's Politics and Diplomacy（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono & Barry Burden
2. 発表標題 The Contingent Effects of Candidate Sex on Voter Choice
3. 学会等名 Polmeth XXXVI COnference of the Society for Political Methodology（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshikuni Ono
2. 発表標題 Do Voters Prefer Gender Stereotypic Candidates?
3. 学会等名 Chicago Area Political and Social Behavior Workshop (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----